

1 「入学者選抜制度に係る検証及び改善に向けた検討に当たっての基本的な視点」に関する意見等

(1) 入学者選抜制度の理念を踏まえた検証・検討

<意見>

- ・ 高校は、子どもの特性や長所を大切にするという考えを基盤とし、また、各高校はスクール・ポリシーを策定し公表する流れの中での入学者選抜制度の改善を行うという視点が必要である。
- ・ 基本的に生徒が自分の将来を見つめて、自分で未来を切り拓いていく、入学者選抜を考えていくということが大きな方針としてあり、自分を振り返る機会を持たせるという指導は常に行っていきたい。

(2) 今後の高校教育の在り方を踏まえた検証・検討

<意見>

- ・ スクール・ミッションは県教育委員会から再定義があり、スクール・ポリシーは各学校で策定ということで、入学者の受入れに関する方針とこれから議論される入学者選抜制度の改善の方向性については密接なつながりがあるため、まとめていただいた理念を踏まえつつ、具体的に落とし込んでいければよい。
- ・ 新しい学習指導要領になり、評価と関連し、授業の在り方も徐々に変わってきているように感じるが、授業中、積極的に発言する生徒がいれば、性格上発言が苦手な生徒もいて、そのような生徒はよい評価がもらえないため、しっかりと授業に取り組んでいる姿勢も汲む、個性を見て欲しいという保護者の声はある。
- ・ 次のとおり、補足説明があった。
 - 横浜市では、第3期横浜市教育振興基本計画、現在、第4期の策定を進めている。高校の教育については3期と基本的には変わらない方向性である。現在これからスクール・ミッションの策定ということで高校は作業があるが、市全体としてはこの内容と齟齬がない方向で教育振興計画の策定を進めている。
 - 川崎市では、川崎教育プランの次期の計画の策定作業中である。川崎市の市立高等学校改革推進計画第2次計画の期間中だが、今現在すでに動いている2次計画に沿って高校改革等を進めていく予定である魅力あふれる普通科教育の推進等を進めながら地域の課題等や区役所等と連携した学校独自の取組等を進めている。

2 「入学者選抜制度の現状と課題について」に関する意見等

(1) 面接検査について

<現状>

- ・ 子どもたちの学びの中で、自分を見つめ直す時間として非常に大切な時間であり、その成果が試されるのが面接である。
- ・ 10分間の面接の中でどこまで生徒を見取れるのか。「主体的に学習に取り組む態度」の評価の精

度を学校がどのように高めていくかが課題である。

- ・ 面接練習をすることにより、教職員の方にも再発見があり、教職員側の理解が深まるため、教育的意義が大きい。

<意見>

- ・ 資料C (p.2) 1つ目・「志望に係る意思を聞き取る必要」があるのか、意思を聞き取るだけなのかというところは疑問である。
- ・ 資料C (p.2) 2つ目・「面接ではなく別の方法で見取ることも可能」の「別の方法」とは具体的にどのような方法が考えられるのか。少し具体性に乏しい記載と感じる。
- ・ 学習指導要領のことも踏まえると、今後、今の中学生が大人になる時に今の産業構造がそのままあることはないという中で、やはり学び続ける力が求められているということ、高校だけではなく、高校を含めて将来のビジョンについて学び続けるというように幅を広げていくことが必要である。
- ・ 自分の意思を言葉で表現しきれないタイプの生徒は、それを引き出すのに時間がかかってしまうため、客観的に評価することが難しい。
- ・ 作文は、10分で対面して自らの言葉で表現できない子どもも書いて表現することができるため、非常に有効と考える。
- ・ 意欲の表し方として、口頭で行う、文章で行うも、それぞれ個に応じたということかもしれない。
- ・ 作文や、自己表現というタイトルで文章を書かせるなど、様々な方法をとっている学校もある。
- ・ 今回、中学校の調査書が変更となることは非常に大きいことであり、アドミッション・ポリシーとの兼ね合いで、何を見たいのかが関わってくる。これからの時代は一概に面接でなくてもよいのではないかと思う。
- ・ 自分の将来の夢や、目標、希望等に近づくために高校でこういうことを学びたい、こういう活動をしたいという話を、自分がこれから学びたい学校の教職員に伝える場があるのは、子どもたちにとってとても大切な時間である。
- ・ 学校選択の理由が多様化してきているため、学力検査だけではなく、自分の思い、自分の考えを伝えて、総合的に評価をしてもらうということは、子ども達にとっては意義がある。
- ・ 一方、入学者選抜制度として考えた時に、10分間の面接時間でどのように評価し選考していくかについて説明することがもっと必要だと思うし、なかなか難しいと考える。
- ・ アドミッション・ポリシーの関係で、それに基づいて各高校の視点や基準について設定し、面接を各学校の選択に任せるという方法でどうか。
- ・ 10分間の面接の中でどこまで生徒を見取れるのかという点から、やはりアドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜制度の改善が大切である。

(2) 実施期間について

<現状>

(全体)

- ・ 神奈川県の入学者選抜は比較的早い時期から行っているという特徴がある。
- ・ 私学の高校の入学者選抜が2月の始めにあり、そこと被らないようにする。

- ・ 他県の状況は、遅いところは地方が多く、大都市圏は少し早い。それは受検生の数の問題である。
- ・ 誰もどこも行き場がないような状況にならないように、共通選抜の後に定通分割選抜と二次募集を実施、最後に定通分割二次募集という重層的な入学者選抜を行っている。
- ・ 早めに始めないと年に概ね4万5千人の入学者選抜を実施できない。

(学校)

- ・ 3月下旬になると新年度に向けての準備と錯綜してしまい、生徒・保護者もなかなか手続き等を時間が取りづらい状況もある。
- ・ 高校生の授業日数が、最大7日、定時制がある学校は、もっと長く授業が行えない。
- ・ 定通分割選抜の二次募集の合格発表が今年度の日程では3月29日、教職員にとっても非常に厳しい。
- ・ 中学校の卒業式までに大方の進路が決まった形で卒業式を迎えたい。
- ・ 現状、共通選抜の合格発表から定通分割選抜の出願まで中1日、共通選抜の二次募集と定通分割選抜が両方出願できるということで、連日になる。
- ・ 実際、定時制に出願した生徒は、全日制の二次募集の方はかなり移動するという状況がある。
- ・ 重層的な機会の確保は重要な一方、定通分割選抜二次募集が、卒業式の後になってしまうという課題と、100%ではないが、現役中学3年生以外の生徒への役割も果たしているような現実もある。

(保護者)

- ・ P T Aは、次年度の予算等の打合せのために学校に行きたいがその機会が限られてしまう。
- ・ 入学手続きの期間が非常に短い状況である。

<意見>

学習保障の視点からの課題

- ・ 入学者選抜期間は、短期であればあるほど望ましい。入学者選抜自体が遅くなった方が中学生の学習時間は確保できる。
- ・ 学習時間が減ってきている等の課題を整理する必要がある。
- ・ 神奈川県は公立高校入学者選抜日程の長さは、高等教育の立場からすると改善が必要である。

長期間の実施による精神的負担（生徒、保護者、中学校及び高校）

- ・ 卒業式前後の大切な中学校生活の期間、学校生活を充実させて終わらせたい。

セーフティーネット

- ・ 定通分割選抜の二次募集は、現役中学校3年生で、そこまで残っている生徒は、近年あまりいないと感じる。
- ・ 現状である定通分割選抜二次募集の受検生が数十名とかなり少ない状況を、どう改善していくか。
- ・ そうしたことを踏まえると、入学者選抜期間は後半に持っていった方がよい。
- ・ 定時制・通信制の日程も含めて短縮し、最後は余裕があつてよい。
- ・ どこまでセーフティーネットの機会を確保するか、その兼ね合いを論議しスリム化を図れるといい。

(3) その他の課題について

○ 私学との調整について

<現状>

- ・ 私学と公立の併願を勧めているが、私学では様々な補助金等によって、学費の問題がクリアされ、公立が不合格なら私学に入学するというのは、一般的な傾向である。
- ・ 一方で、各学校クラスに1名程度は経済的な理由で私学に行けないという事実を考えると、全体としては一定のボリュームを持つ。少数を見過ごしてはいけない。
- ・ 公立高校の一部の学校では志願者が多く集まり、不合格の生徒は、私学へ進学する。

<意見>

- ・ 学校がアドミッション・ポリシーに基づきどう入学者選抜について考えていくのかが重要である。

○ 検査当日について

<現状>

- ・ 入学者選抜検査当日に迷ってしまったという受検生がいた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、受検する高校へ行く機会（文化祭・体育祭・学校説明会等）が非常に減ってしまった。
- ・ 学校説明会のweb予約がなかなかできないという声がある。

<意見>

- ・ 中学校で個別に受検校を一度は訪問することを指導して欲しい。任意ではないやり方で、受検校に行く機会を保障するというのは考えにくい。

○ 特色検査について

<現状>

- ・ 学力向上進学重点校とエントリー校による18校合同の特色検査は、共通問題、選択問題、マークシート導入、と改善は図られているが、それ以外の学校と同じ日程の中で行っており、業務遂行が厳しい状況である。

<意見>

- ・ 中学生の受検生にとって準備段階から過度な重圧になっているのではないかと思う。
- ・ これからはそれぞれの学力向上進学重点校等においても、まさにアドミッション・ポリシーでどういう生徒をとりたいかを示すことで、特色検査も使い方や在り方が変わってくるのではないか。
- ・ 記述問題が豊富にある、学校独自で作ってもよいなど柔軟に選択できる余地があれば、そこも含めてアドミッション・ポリシーの中で関連付けて扱うなど考えるべきではないだろうか。

○ 主体的に学習に取り組む態度の評価について

<意見>

- ・ 意欲の評価といったときに、個によって様々な表現の仕方がある。口頭で自分を表現する力がある子、力のない子は作文とするという方向もあり、多様性がでてくるのではないか。

- 主体的に学習に取り組む態度を中学校で評価し調査書に載せて提出しているのので、これによっても評価ができる。
- 子どもが将来に向けて進路を選択していく、自分で道を切り開いていこうとする、それに応じて高等学校ごとにアドミッション・ポリシーがある。その中で、面接をしっかりと行って見取るとい学校は面接を行えばよい。作文により見取るところは作文を行えばよい。主体的に学習に取り組む態度の評価を重んじるのであればその辺りを見取るということ。
- 意欲の評価の仕方については、面接によるもの、作文、主体的に学習に取り組む態度の評価、このようなものを活用しながら見ていく。特色検査の在り方自体も、面接を含めるといようなことも柔軟に考えていく。